

No.1

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人氷見市社会福祉協議会

令和4年度氷見市社会福祉協議会事業概要

★…令和4年度新規事業

担当	分野	事業名	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
総務・企画課	法人運営	市社協役員会・委員会の開催	理事会、監査会、評議員会等を開催し、市社協の運営について協議する。その他、専門部会及び各種委員会を設け、より専門分野について協議した。	○		
		市社協役員研修会の開催	令和5年4月実施の地域福祉実践セミナーを役員研修の位置づけとして準備を進めた。	○		
		★氷見市社会福祉協議会 活動の記録「福来の挑戦」の編集・刊行事業	令和4年度から第4次地域福祉計画及び地域福祉推進計画がスタートし、これまでの氷見市社会福祉協議会の地域福祉の取組を振り返り、整理するとともに、新たな時代に必要地域福祉の方向性を見出し、今後の市社協の地域福祉活動の布石となる活動記録「福来の挑戦～氷見市地域福祉実践40年のあゆみ～」を編集・刊行した。	○		
		市社協会長表彰・かがやき賞授与、感謝状贈呈式典	地域福祉活動・ボランティア活動実践で顕著な功績があった団体・個人を表彰するとともに寄付における感謝状を贈呈した。(2月5日)	○		
		★氷見市社会福祉協議会地域福祉推進計画研修	市の第4次地域福祉計画に基づく市社協地域福祉推進計画について、強化プロジェクトや各課における強化事業の推進を図り、推進計画の策定を進めるほか、組織基盤の強化、社協の機能強化を図るための研修を開催した。(6月29日)	○		
	地域福祉研修センター	地域福祉研修センター氷見の運営	氷見の地域福祉実践の検証と地域住民、専門職の取り組みについて検討することをねらいに、県内・県外の福祉専門職を対象とする研修企画、福祉系大学の専門職養成の実習と医療、教育関係者の実習・視察の受け入れ及び講師として職員を派遣した。	○		○
		介護サービス従事者研修の開催	市内の介護サービスに携わる職員の資質向上を目的に各種研修会を開催した。	○		○
		介護講座の開催	高齢者、障害者介護を地域社会全体で支え合えらるよう、地域住民に介護に関心を持ってもらう機会を提供し、介護知識や技術の習得を目的に開催した。	○		○
		★住民向け福祉講座の開催	「人生100年時代」をテーマに講座を開催し、住民の福祉への関心を高めるとともに、今後求められるサービスや事業の開発に向けた調査を行った。	○		○
		都城市社協人事交流職員育成事業	職員の育成並びに新たな地域福祉実践プログラムの開発、研究に取り組むため、都城市との情報交換会、合同事例検討会(オンライン2回)を開催した。	○		
市社協職員研修の開催		社協職員の資質向上を目的に各種研修会を開催した。	○			
その他	共同募金委員会の運営	地域福祉の推進のため共同募金委員会を運営し、共同募金の配分事業の募集及び配分事業の支援を行うとともに、寄付文化の醸成を図った。			○	
地域福祉・ボランティア推進課	地域福祉活動の推進	地域福祉総合相談 →ほっとねっと社協	市民のあらゆる悩みごとの相談に応じ、必要に応じ関係機関と連携し、市民の生活課題の解決に向けての支援を行った。	○		
		ふれあいコミュニティケアネット21事業	シルバー談話室等の集合型地域福祉活動と地域住民による個別支援活動(ケアネット活動)を通じて、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを目指す21地区社協の活動に対し、活動費の補助を行った。	○		○
		ふれあい型の地域福祉活動支援	高齢者を対象としたシルバー談話室や在宅児とその保護者等を対象とした地区子育てサークルなど、地域住民のふれあいやつながりづくりを目的とした地区社協活動を支援した。	○		○
		ケアネット活動支援	あらゆる地域住民を対象に、声かけや見守り、身の回りのちょっとしたサポートを地域住民がチームになって行うケアネット活動を支援した。また、ケアネット活動では対応できないニーズを福祉専門職等へつなぐことや、福祉専門職等からのケアネット活動との連携を行った。	○		○
		地区社会福祉協議会連絡会議の開催	市内21地区社協の取り組みの紹介や各地区で抱えている課題やニーズなどの情報交換を目的に連絡会議を開催した。(8月、11月、3月)	○		○
		★地区社協新任役員研修会の開催	地区社協の新任役員を対象に、地区社協の役割理解の共通認識を深めることを目指した研修会を企画・実施した。	○		○
		地区社協トップセミナーの開催	区社協の役員を対象に、地区社協の役割理解の共通認識を深めることと、今後の地区社協のあり方などを検討する研修を企画した。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため次年度に延期)	○		○
		◆安心生活創造事業	あらゆる地域住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる場や機会、福祉などの公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことができる地域共生社会を目指した地域づくりの支援を行った。			○
		いのちのバトンの設置普及活動 (旧災害時要援護者支援事業)	救急搬送時や災害時に必要となる緊急連絡先や服薬情報などの情報を、あらかじめ自宅冷蔵庫に設置する「いのちのバトン」の設置・普及を地区社協、消防署とともに促進した。また、事業を通し、平時及び災害時に支援が必要な地域住民の把握を進めた。			○
		福祉・防災マップ・避難行動要支援者リスト作成の支援 (原子力防災マップ等作成事業)	日頃の隣近所の支え合い体制強化の一環として、福祉と防災の情報を可視化できる「福祉・防災マップ」と、災害時の避難行動に支援が必要な住民の把握と支援方法、支援協力者を記載する「避難行動要支援者リスト」の作成を支援した。※UPZ圏内の地区は、富山県原子力防災マップ等作成事業内で実施した。			○
生活支援サービスの実施支援	住民のニーズに対応するため、地区社協等における生活支援サービス(買い物や移動等)の検討・実施、対象を限定しない居場所(拠点)づくりに関わる取り組みの支援を行った。			○		
地域福祉活動サポーター 育成研修等の実施	社会的孤立状態(陥る可能性のある)にある市民や世帯を早期に発見し、地区社協や民生委員児童委員、行政者や社協などの関係者へつなげる役割を担う地域福祉活動サポーターの育成研修を研修を行った。			○		
生活支援サービス車両提供事業	買い物支援や移動支援を実施する地区社協へ車両の貸し出しを行った。また、老人休養ホーム寿養荘利用者を対象としたショッピングセンター等への送迎を行った。	○		○		
◆参加支援事業	社会的に孤立している(する可能性のある)市民や引きこもり等で社会から一定期間離れている市民を対象に、本人の居場所や将来的な就労を視野に入れた就労体験等を創出し、社会の一員として役割が持てるよう、地域や民間企業等と連携する体制を整備した。			○		
◆生活支援コーディネーター設置事業	生活支援コーディネーターを1名配置し、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において住民主体の多様な事業主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行った。			○		

担当	分野	事業名	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
地域福祉・ボランティア推進会	ボランティア・市民活動の促進	ボランティア総合センターの運営	地域福祉活動、ボランティア・市民活動の普及・促進を目的に、ボランティア活動者支援、ボランティアコーディネート、ネットワークの構築、ボランティア情報発信、活動プログラムの開拓、出張講座、NPO法人設立支援、各種ボランティア調査を行った。	○		○
		ボランティア・市民活動相談 →ほっとねっとボラセン	地域福祉活動、ボランティア・市民活動に関する相談に応じ、専門機関と連携を図りながら解決に向けての支援を行った。	○		○
		ボランティア活動保険普及事業	ボランティア活動者が安心して活動できるための保険の紹介と加入受付、保険請求事務を行った。	○		○
		ボランティア寄付の普及・管理・運用	誕生日ボランティア寄付やふるさとボランティア寄付の普及を図り、各種寄付の受付を行った。	○		○
		ボランティアイベントの開催	ボランティアのすそ野拡大のため、ボランティア活動・団体に関する情報やボランティア体験の提供、気軽に取り組める活動の紹介を行った。また、活動者や団体が交流する場や日頃の活動成果を披露する場を設けることで、活動に対する意欲を高め、今後の市内ボランティアの活性化を図ることを目的に実施した。	○		○
		テーマ型ボランティア養成講座の開催	音訳ボランティアグループなみの会が、視覚障害者へ生活に必要な情報を音訳などをおし届けているが、会員の高齢化や会員減少の現状があったことから、次代の音訳活動の担い手育成を目的に養成講座を行った。	○		○
		ボランティア・チャレンジ・プログラムの実施	新型コロナウイルスのため、未実施	○		○
		福祉教育推進体制の整備	氷見高校の課題探求型授業「HIMI学」において、氷見市の「福祉」や「ボランティア」、「共生」などをテーマ設定しているクラスや生徒に対して、情報の提供や企画の協働作業を行い、出張講座を行った。また、福祉教育をイメージしやすくするための具体的なプログラムについて検討した。	○		○
		福祉教育地域指定事業	氷見市ならではの地域ぐるみの福祉教育の実施を目指し、関係者との情報交換、互いの意識共有を図る為の検討会を開催し、モデル地域内で実施した。	○		○
		地域サロン等活動支援事業	地域ボランティアによって、開催されているサロン活動の活性化と身近なたまり場づくりを支援するため、レクリエーション資材の貸し出しを行った。	○		○
		遊休品バンクEくすちやーEかすちやーの実施	一般の市民や企業、福祉事業所等から寄付として受け付けた物資を生活困窮者や災害被災者など、緊急的に支援が必要となった市民に対して、必要最低限の食料品や衣類等生活用品を提供した。また、社会福祉法人などの地域貢献活動としてネットワークを構築した。	○		○
		ボランティア総合センター運営委員会の開催	運営委員によるボランティア総合センター事業の分析・評価を行い、市民のニーズを的確に捉えた運営を行うために運営委員会を開催した。(7月、12月、3月)	○		○
		施設ボランティア担当者連絡会の開催	市内福祉施設に現在のボランティア受入れ状況や、新し育成するボランティアの受入れについてアンケートをおこなった。	○		○
		災害救援ボランティア・生活支援センター整備事業	災害時により円滑に被災者支援を行うことができる体制を整えるため、氷見ライオンズクラブや氷見青年会議所と協働した災害救援ボランティアセンターの設置・運営訓練を実施した。	○		○
				災害ボランティアネットワークの構築	「災害」を切り口に、福祉・防災マップや避難行動要支援者リストの作成・更新を通して、地域福祉活動の理解や住民相互の支え合い体制構築を図った。また、市内の企業が発災から復興までの間にできることを整理するワークショップを行い、ボランティア活動者支援について検討した。	○
その他		いきいき元気館の運営・管理 (指定管理者制度)	子どもから高齢者まで、幅広い世代の市民が健康やいきがいのために交流する場の運営・管理を行った。		○	
		★新型コロナウイルス感染症自宅療養者等支援事業	新型コロナウイルス感染症による自宅療養者等に対して買い物代行や薬の受取代行を行った。		○	
子ども支援課	乳幼児・児童福祉	児童館の運営(指定管理者制度)	遊びや行事を通して、児童の健全な育成と豊かな情操を養うための支援を行った。また、氷見市の児童健全育成活動の拠点となるよう地域社会及び児童福祉関係機関等との連携に努めた。感染症対策を徹底しながら、親子でふれあい体験ができる活動(釣り・野外炊事)を行った。			○
		地域子育て活動支援事業	地域における子育て支援環境の向上のため、地域の拠点に出向き、遊びの提供をしたり、運営上の相談に応じたりする等の支援を行った。また、放課後児童健全育成事業やさんさん広場、子ども食堂などの運営に関する相談や支援を行った。コロナ禍の中、経済的に困窮に陥っている家庭を早期に把握し、適切な支援へとつなげるために、食材の提供を行った。	○		
		ファミリー・サポート・センター事業	保護者の緊急時、乳幼児の一時預かりを社会福祉会館等で行った。また、地域での子育て支援を行い、児童福祉の向上を図った。	○	○	
		事業所内保育所の運営	事業所の従業者や一般就業者の仕事と子育ての両立支援をすると共に働きやすい環境整備の一環として乳幼児保育を行った。			○
		乳幼児・子育て悩み相談 →ほっとねっときらら	乳幼児を持つ親を対象に、家庭、地域における生活上の悩みごとの相談に応じ、専門機関との連携を図りながら解決に向けての支援を行った。	○		
		学童保育サービス (放課後児童健全育成事業)	日中家に保育する者がいない小学生を対象にした児童の預かりを行う。			○
		子ども・子育て悩み相談 →ほっとねっと児童館	子どもや子育て中の親を対象に、学校・家庭・地域における生活上の悩みごとの相談に応じ、専門機関との連携を図りながら解決に向けての支援を行った。	○		
		子育て支援スタッフ育成・発掘事業	地域ぐるみで子育てをする環境づくりを進めるため、子育て支援現任者のほか、子育てに関心のある者等を対象とした研修を実施することで、子育て支援ボランティアを発掘・育成し、地域における多様な子育て支援の充実を図った。			○
		こどもホームデリ	経済的に困窮する家庭の生活を支えるため、家庭で余っている食品や、団体・企業等で様々な理由により販売できない食品等を寄付していただき、必要な方へ食品等を提供した。潜在的に生活困窮に陥っている家庭を早期に把握し、適切な支援へとつなげることができた。	○		○
		学習・生活支援事業	貧困の連鎖を防ぐため、生活困窮世帯及び生活保護受給世帯等の概ね小学校5年生から高校3年生を対象に、居場所を設け、生活する力の習得や学習意欲の向上を図った。 (生活困窮者自立支援制度内任意事業)			○

担当	分野	事業名	事業概要	財源			
				自主	受託	補助	
高齢者福祉サービス	高齢者福祉サービス	老人休養ホーム寿養荘の運営・管理(指定管理者制度)	高齢者等に休養の場を提供し、高齢者等の心身の健康の保持を図る。		○		
		高齢者グループリビングの運営	自宅での生活が困難な低所得の一人暮らしや高齢者世帯の方を入所対象とし、スタッフの見守りと共同生活によって安心して生活が送れるようにする。	○		○	
		ほっとヘルプサービス事業(制度対象外のホームヘルプサービス)	公的サービスでは自立が困難な場合、家族に代わってホームヘルプサービスを有料で行う。(令和4年度実績なし)	○			
		日常生活用具貸出サービス(介護保険対象外)	介護保険適用外の高齢者や障害者等に必要な福祉用具を貸し出す(特殊寝台、車いす、歩行器、床ずれ防止用具)	○			
	介護保険事業	総合事業・居宅介護支援事業	要支援や要介護認定者の居宅サービス計画の策定及び連絡調整を行った。	○			
		総合事業・訪問介護事業	要支援や要介護認定者にホームヘルパーが自宅を訪問し、日常生活の世話をを行った。また、寝たきりや車椅子利用の方が安心して通院できるように送迎サービスを行った。	○			
		介護予防・訪問入浴介護事業	自宅で入浴が困難な要介護認定者に、入浴車が家庭に出向き特殊浴槽において入浴の介助を行った。	○			
		総合事業・地域密着型通所介護事業	要支援や要介護認定者に介護予防、自立支援などの目的を持って、送迎、健康チェック、入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを施設にて提供した。	○			
		介護予防・福祉用具貸与事業	要支援や要介護認定者に福祉用具(特殊寝台、特殊寝台付属品、車いす、車いす付属品、床ずれ防止用具等12種類)の貸し出しを行った。	○			
	障害者福祉サービス	障害者訪問入浴サービス	在宅の障害者に対して、特殊浴槽を利用し自宅での入浴の機会を提供すると共に、介護者の介護負担の軽減を図った。	○			
障害者ホームヘルプサービス		常時介護を必要とする在宅の身体障害者に身体介護、家事援助、外出時における移動中の介護を行い、障害者の自立支援及び家族の介護負担の軽減を図った。	○				
障害者福祉サービス	障害者福祉サービス	障害者相談支援事業(委託相談)→ほっとねっと我家	専門の相談員が身体、知的、精神障害児(者)やその家族の相談に応じ情報提供をしたり、問題解決のための調整を行った。		○		
		指定特定相談支援事業(旧障害者ケアマネジメントサービス)	在宅の障がい者の生活全般にわたるサービス等利用計画を作成し、より自立をした在宅生活ができるよう支援した。	○			
		指定障害児相談支援事業	在宅の障害児の生活全般にわたるサービス等利用計画を作成し、より自立をした在宅生活ができるよう支援した。		○		
		共生型障害者デイサービス	在宅の身体障害者が、生きがいを持って自立と社会参加ができるように通所による、生活指導、健康チェック、入浴、リハビリなどのサービスを行った。	○			
		共生型障害児デイサービス	障害児に日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練などを行い、障害児の主体性や社会性を育成した。	○			
	障害(児)者等通所入浴サービス	心身の障害や環境の障害のため、デイサービスや訪問入浴サービスの利用が困難な場合に、施設への送迎を行い、専用の浴槽を利用し入浴の機会を確保した。	○				
介護保険事業	総合事業・地域密着型通所介護事業	要支援や要介護認定者に介護予防、自立支援などの目的を持って、送迎、健康チェック、入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを施設にて提供した。	○				
ふくし相談サポートセンター	生活困窮者自立支援	◆生活困窮者自立相談支援事業	経済的困窮者や複合的な課題を持つ世帯を対象とし、相談支援業務を担当し、従来の福祉分野を超えた多職種で支援するためのマネジメント及び就労に向けた環境整備等を行った。		○		
		家計改善支援事業	収入(賃金や公的年金等)と支出のバランスが崩れることによって様々な生活課題を抱えている生活困窮世帯等を対象に、家計状況を整理するなど、収入と支出のバランスが保たれるよう支援を行い、関係する生活課題の解決を図った。*生活困窮者自立支援制度内任意事業		○		
		学習・生活支援事業	再掲(こども支援課と協働で実施)		○		
		アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化事業	社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方に対し、一人ひとりが抱える課題に応じた就職支援の充実や職業的自立の促進、生活支援の充実等により社会の担い手として活躍できるよう支援した。*生活困窮者自立支援制度内事業		○		
		生活困窮者等緊急生活支援事業	生活困窮者や緊急的な支援が必要な世帯を対象とし、必要最低限の食料品や衣類等生活用品の提供、住まいの応急的な補修・環境整備に要する資材の提供等、衣食住に対する支援に備えた。	○			
	障害	◆基幹相談支援事業	障害児・者に対応する相談支援事業所が抱える困難ケースへのアドバイス及び介入をはじめ、人材育成・各機関とのネットワークづくりや市民の障害に対する理解促進及び当事者の権利擁護体制の構築等の環境整備を行った。			○	
		重層的支援体制整備	多機関の協働による包括的支援体制構築事業	多機関協働マネージャーを配置し、対象を限定せずすべての市民の福祉に関わる相談に対応すると共に、地域や包括的相談事業(地域包括支援センター、困窮、基幹、子育て世代包括等)が把握した「社会的孤立者」等の支援について、地域、専門職、行政が円滑に連携し支援できるようコーディネートを行う。また重層的支援会議等、各種会議を通して支援体制の強化に関する取り組みを行った。			○
			アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	氷見市が目指すセーフティネットの構築に関連し、①社会的孤立状態(陥る可能性のある世帯)を早期に発見し、関係者へつなげる担い手(地域福祉活動サポーター)や地区内での相談を受付ける場(地域なんでも相談)と連携し、該当する世帯への訪問活動を通じて、地域生活課題を解決するための支援へとつなげるアウトリーチ支援員を配置し、セーフティネットを強化を図った。			○
		各担当部署◆印事業	◆事業参照			○	
	福祉サービス利用支援	日常生活自立支援事業	認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等判断能力が不十分な人が、安心して日常生活を送ることができるよう利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助等を行った。			○	
成年後見制度利用の支援		判断能力が不十分な人(認知症、知的障害、精神障害のある方)を対象に、財産管理や法律行為(契約や財産分割)を行うための成年後見制度の利用支援を図るため、呉西地区成年後見センターや他事業所と連携し、相談援助を行った。			○		
生活福祉資金貸付事業		失業者世帯、低所得者世帯、障害者世帯、高齢者世帯を対象とする生活福祉資金の相談援助を行った。令和3年度においても引き続き、新型コロナウイルス感染症における特例貸付が実施され、休業、廃業等で収入減少した世帯への資金の貸付と必要な相談援助を行った。			○		
プロジェクトチーム	地域福祉推進計画基盤強化プロジェクトの推進	人材育成、人材確保、情報管理、連携の各プロジェクトチームを編成し、課題の整理及び課題解決に向けた取り組みを展開し市社協組織の基盤強化を図った。	○				
部会	職員のエリア担当制の実施	職員がチームを作り、各担当地域において地域住民と共に生活ニーズの把握・解決の支援を行った。	○				
	広報「ひみのふくし」の発行・充実	市民に地域福祉の最新情報など情報提供を行った。(毎月1日発行、全戸配布)	○				

事業活動の概要

I 総務企画課

1. 法人運営

(1) 役員会の開催

開催日	会議名	出席者数	協議事項
6月6日	監査会	2	令和3年度事業報告について 令和3年度収支決算について
6月9日	第3回理事会	11	議案第9号 令和3年度事業報告について 議案第10号 令和3年度決算報告について 議案第11号 評議員評議員候補者について 議案第12号 令和4年度定時評議員会の招集について
6月16日	第2回評議員選任・解任委員会(文書審議)	3	議案第2号 評議員の選任について
6月24日	定時評議員会	17	議案第2号 令和3年度氷見市社会福祉協議会事業報告について 議案第3号 令和3年度氷見市社会福祉協議会決算報告について
11月30日	第4回理事会(書面決議)	12	議案第13号 役員候補者について 議案第14号 評議員推薦候補者について 議案第15号 第3回評議員会について 議案第16号 第3回評議員選任・解任委員会について
11月30日	第3回評議員会(書面決議)	20	議案第4号 役員の選任について
12月1日	第3回評議員選任・解任委員会(文書審議)	3	議案第3号 評議員の選任について
3月23日	第5回理事会	8	議案第17号 令和5年度氷見市社会福祉協議会事業計画及び予算(案)について 議案第18号 臨時従業員就業規則一部改正について(案) 議案第19号 職員等の資格取得助成要綱の制定について(案) 議案第20号 任期満了に伴う第三者委員の選任について 議案第21号 令和4年度評議員会の招集について
3月23日	第4回評議員会	13	議案第5号 令和5年度氷見市社会福祉協議会事業計画及び予算について

(2) その他委員会の開催

開催日	会議名	出席者数	協議事項
12月15日	表彰選考委員会	6	市社協会長表彰、市社協会長感謝状の贈呈予定者について

(3) 会長表彰、かがやき賞、感謝状贈呈式の開催

実施日	会長表彰	かがやき賞	感謝状
2月6日	個人11名、1団体	該当なし	個人1名、2団体

(4) 広報「ひみのふくし」の発行

発行月	特集ページ	他内容
4月	ボランティア活動啓発(春到来あなたに贈るボランティアのススメ)	高校生ボランティア、県地域包括ケア実践顕彰受賞紹介、地域共生社会啓発シリーズ、令和5年度共同募金事業募集、遊休品バンク紹介、ホッとおしゃべりサロン告知、寄付受付 他
5月	地域福祉活動啓発(地域づくりを支える人財育成)	音訳ボランティア「なみの会」、地域共生社会啓発シリーズ、介護保険事業所紹介、つながり続ける福祉シリーズ①、ファミリー・サポート・センター紹介、寄付受付 他
6月	市社協事業紹介(エリア担当メンバー紹介)	地域共生社会啓発シリーズ、職員募集、子育て家族応援講座募集、令和4年度市社協予算、寄付受付 他
7月	福祉活動紹介(つながり続けるふくしシリーズ②レターカフェ)	ボランティア団体「エーデルワイス」、地域共生社会啓発シリーズ、フードドライブ、絵手紙ボランティア講座告知、寄付受付 他
8月	地域福祉活動啓発(朝日丘校区社協35年の歩み)	地域共生社会啓発シリーズ、遊休品バンク紹介、出張ボラセン告知、決算報告、寄付受付 他
9月	社会福祉啓発(障害者雇用月間)	布勢地区「きづなサロン」、こども館きらら紹介、成年後見制度等相談会告知、寿養荘ニュース、寄付受付 他
10月	地域福祉と防災(防災から地域の福祉力を高める宇波地区の取り組み)	児童館「釣り教室」、地域共生社会啓発シリーズ、第4次氷見市地域福祉計画、共同募金運動、ほっとおしゃべりサロン告知、寄付受付 他
11月	ボランティア活動啓発(災害ボランティアを支える体制づくり)	インターンシップ・福祉実習生受入れ、地域共生社会啓発シリーズ、共同募金紹介、いいね!地区社協⑧「阿尾地区社協」、寄付受付 他
12月	地域福祉活動啓発(みんなが注目のeスポーツを体験してみませんか)	障害者週間啓発、共同募金紹介、地域共生社会啓発シリーズ、県社会福祉功労者表彰、市民講座告知、寿養荘ニュース 他
1月	ボランティア活動啓発(フードドライブ、遊休品バンク)	床鍋地区「しめ縄づくり」、いいね!地区社協⑨「東地区社協」、いのちのバトン紹介、出張ボラセン告知、寄付受付 他
2月	地域福祉活動啓発(地域福祉大特集)	朝日丘校区「紳士&淑女の珈琲講座」、しごとサポーター養成講座告知、成年後見制度等相談会告知、寄付受付 他
3月	福祉教育の取り組み(氷見高校HIMI学)	市社協会長表彰、つながり続けるふくし③「旧川西商店」、共同募金紹介、世界自閉症啓発デー、ボランティア活動保険、寄付受付 他

(5) 第4次氷見市地域福祉計画、氷見市社協地域福祉推進計画の推進

第4次地域福祉計画及び地域福祉推進計画の推進のため、行政との事務局会議及び社協基盤協プロジェクトチーム(PT)による課題解決に向けた検討を行った。

①第4次氷見市地域福祉計画

月日	内容	アドバイザー
6月28日	合同事務局会議	日本福祉大学 教授 原田正樹 氏
3月13日	合同事務局会議	

②氷見市社協地域福祉推進計画・組織基盤強化プロジェクトチーム（PT）

PT名	月日	内容	講師等
全体	6月29日	地域福祉推進計画第1回推進研修	日本福祉大学教授 原田 正樹 氏
	12月14日	基盤強化PT間連携ミーティング	
人材育成	7月26日	PTスケジュール策定	
	8月18日	具体的取組について詳細検討	
	9月2日	キャリアファイル、目標評価シート検討	
	9月22日	人事評価制度職員説明会	
	10月1日	人事評価制度試行開始	
人材確保	7月12日	PTスケジュール策定	
	9月26日	魅力発信プロジェクトについて検討	
	11月14日	魅力発信プロジェクトについて検討	
	2月7日	魅力発信プロジェクト登壇者打ち合わせ	
	2月16日	氷見の福祉の魅力発信プロジェクト座談会	登壇:4法人 進行:北條 巧磨 氏
情報管理	8月4日	PTスケジュール策定	
	12月13日	社内の現状と課題の共有、改善策の検討、視察について	
	1月12日	システム導入社協視察	南砺市社会福祉協議会
	2月14日	視察報告、改善策の取りまとめについて	
	3月6日	システムの比較検討	
	3月7日	改善策(ソフト面)の検討	
	3月14日	改善策(社内提案・報告)資料の作成	
	1月25日～ 3月28日	システム デモ体験	4社
連携	7月20日	PTスケジュール策定、取り組み内容の検討、連携体制の課題整理	

2. 地域福祉研修センター氷見

第4次地域福祉計画が目指す地域共生社会の実現に向け、市民・専門職等を対象に、各種研修を開催し、地域福祉活動の向上を図った。コロナ禍において一部当初計画どおり実施できない事業もあったが、実施時期や開催方法の検討により研修機会の確保に努めた。

(1) 介護サービス従事者研修の開催

開催日	内 容	社協内	他事業所
4月13日(水)	今年度事業計画について	17	0
5月18日(水)	認知症について～エマニチュードの技法を学ぶ～	10	0
6月15日(水)	難聴や補聴器のことを学ぼう～耳の聞こえと認知症～	10	0
7月20日(水)	地域の社会資源を知ろう(地区社会福祉活動含め)	13	10
9月21日(水)	正しいマットレスの選び方(新しい福祉用具機器の紹介含む)	10	3
11月16日(水)	感染対策～基本を繰り返し学ぼう～	13	12
12月14日(水)	緊急時の対応方法	19	7
1月18日(水)	虐待防止や差別、権利擁護等について考えよう!	16	6
2月15日(水)	健康体操～脳活性化運動～	21	8
3月16日(水)	対人援助の基本!コミュニケーションスキルの向上	9	5
合 計		138	51

(2) 市民講座「地域共生社会の実現を目指して」

「人生100年時代を生きる」をサブテーマに、市民の関心が高いテーマで公開講座を実施した。

開催日	テーマ	講師	参加人数
1月21日	人生100年時代を生きる～すでに始まっている未来と日本の今	若宮 正子 (世界最高齢プログラマー)	146
1月28日	<住まいと財産その1>大切な住まいの活かし方～移住支援の現場から見る「空き家」問題	藤田 智彦 (氷見市IJU応援センター移住相談員)	37
2月18日	<住まいと財産その2>家・財産・相続にまつわるあれこれ～相続・遺言はどうする?～	谷道 伸也 (司法書士法人谷道事務所代表・司法書士)	48
3月5日	これまでの人生を振り返り、これからの人生を考える～エンディングノートを使った生前整理の進め方～	浮田 美紀子 (シニアライフカウンセラー)	48
合 計			279

(3) 外部との連携による講座

開催日	内容	参加人数	備考
3月6日	精神障害・発達障害者しごとサポーター養成講座	45	ハローワークと共働で職場における精神障害・発達障害者への理解を深める研修会を開催した。

(4) 氷見市社協職場内研修

開催日	内容	参加人数	講師等
6月28日	氷見市社協職員エリア担当制報告会	24	日本福祉大学教授 原田正樹氏
8月4、5、31日	社協職員基礎研修	5	
7月11、13日	接遇・コミュニケーションスキルアップ研修	77	株式会社ハートデザイン代表 中村清美氏
1月12日	県社協地域福祉実践研究発表会事前検討会	10	
11月25日,12月8日,2月22日	事例検討会Vol1～Vol3 (2・3回目は都城市社協と合同)	45	
2月7日	事業継続計画(BCP)策定支援研修	15	富山県社会福祉協議会主催研修を受講(リモート)
2月15日～28日	包括的支援体制と地域共生社会・共生社会の実現に向けた総合研修	6	日本社会事業大学(厚生労働省委託)主催研修を受講(リモート)

(5) インターン・現場実習受け入れ

①社会福祉士資格取得実習

実習期間	実習生所属先	人数
2月10日～ 3月17日	富山国際大学	3
	東海医療科学専門学校	1

②介護支援専門員実務研修

実習期間	実習生所属先	人数
1月27日	富山県	1

③インターン

実習期間	実習生所属先	人数
8月8日～9月15日	富山国際大学	2

(6) 職員派遣

派遣日	派遣先
4月～3月(6回)	全社協 社協ボランティアセンター推進方策検討委員会(全社協)
8月2日	長野県地域共生社会推進セミナー
8月4日	富山県地域福祉計画セミナー
8月24日～26日	地域福祉実践セミナーinいまばり
9月29日	半田市住民主体の地域づくり研修会
8月23日	相談支援専門員初任者研修(ファシリテーター)
9月2日	家計改善事業従事者養成研修(全社協主催・リモート)
9月10日	日本福祉大学通信教育部講義(リモート)
9月21日	徳島県社会福祉協議会民生委員市町研修会(リモート)
9月18日	サービス事業管理者養成研修
9月29日	半田市福祉研修会
10月4日	高崎健康福祉大学「地域福祉」
10月4日～3月29日	多機関協働事業の実施状況に関する実態把握及び効果的な実施方法に関する調査研究事業委員会(全3回)
10月28日	富山県社会福祉協議会重層的支援体制構築事業セミナー
11月11日	高岡市相談部会(圏域アドバイザー)
12月5日	高崎健康福祉大学福祉学部キャリアアップ講座
12月6日	富山県地域防災対応力強化研修
12月23日	第2回重層的支援体制整備事業多機関協働事業委員会(全3回)
12月23日	東海・北陸ブロック研修「困窮者支援におけるアウトリーチについて」
1月24日	主任相談支援専門員養成研修
1月30日	専門コース別研修
1月30日	富山国際大学就職懇談会
2月1日	奈良県中和地区障害者自立支援協議会研修会
2月9日	新潟県重層的支援体制整備事業研修会(リモート)
3月16日	相談従事者養成研修
3月6日	砺波市社会福祉協議会包括的支援体制整備事業研修

(7) 視察受け入れ

月 日	内 容	人数
11月8日	東御市社会福祉協議会理事・職員	20
11月21日	半田市社協(地区社協取組み)	34

(8) 都城市社協人事交流

コロナ禍が続き、相互人事交流は実施できなかった一方で、リモートによる合同事例検討会を令和3年度に続き、実施。それぞれの事例を協議し、お互いの資源の理解と支援方法の考え方について、学んだ。

実施日	内 容	参加人数(氷見市社協)
12月8日	合同事例検討会(リモート)	42(12)
2月22日	合同事例検討会(リモート)	53(23)

Ⅱ 地域福祉・ボランティア推進課

≪地域福祉活動の推進≫

1. 地区社協連絡会議の開催

市内21地区社協の取り組みの紹介や各地区で抱えている課題やニーズなどの情報交換を行った。

日時	内容	出席地区数
8月8日(月) 13:30～	R3市社協事業報告・決算、R4事業計画・予算、部会による検討「課題と成功要因」他	19
11月15日(火) 13:30～	民生委員改選に伴う地区内の連携体制について、部会による検討「課題に対する対応策」他	20
3月3日(金) 13:30～	住民の福祉意識の醸成について、部会による検討「取り組みのアイデア出し」他	20

2. 地区社協トップセミナーの開催

地区社協役員を対象に、地区社協の役割の共通認識を深めることと今後の地区社協のあり方などを検討するため、地域と防災に関わる研修会を企画し実施する予定だったが、未実施。

3. ふれあいコミュニティケアネット21事業

(1) ふれあい型事業

地区社協単位に、乳幼児から高齢者までを対象にしたさまざまな地域福祉活動を展開するとともに、地域の福祉力向上を目的とした研修や広報による啓発を行った。

対象(内容等)	実施地区数	内容
乳・幼児	16	地区サークル支援、保育園の行事協力
児童	9	小学校や育友会等との連携による行事開催など
障害児・者	0	施設訪問、車椅子体験
高齢者	21	ふれあいランチサービス、シルバー談話室、配食サービス、高齢者の料理教室、敬老の集い、一人暮らし高齢者宅訪問など
世代間交流	0	三世代料理教室、三世代交流会など
広報活動	13	地区社協だよりを年1回～4回発行し、地域住民への福祉啓発を行った。
その他		各種研修(健康、生活関連)、福祉調査、地区福祉大会、県内地区社協との交流

(2) ケアネット型事業

地区社協単位に、1人(家族)で生活していくことが難しい乳幼児から高齢者までを対象に、地域住民が見守りや話し相手など、できることで支援し、関連する会議や研修を開催し、地域の見守りネットワークを構築・強化した。

①ケアネット活動実績

	3年度	4年度	前年度比
チーム数	864	824	95%
協力者数	2001	1846	92%
延活動回数	75,608	55,425	73%

②ケアネット活動内容

見守り、話し相手、買い出し、ゴミ出し、送迎、おすそ分け、地域行事への誘い出し等

③ケアネット関連研修・会議開催実績

	実施地区数	内 容
研修	21	ケアネットの現状に関する専門的知識と今後のケアネットのあり方について、講師を招いたり、グループ討議をした。
会議	21	ケアネット当事者の情報交換と新たなニーズ把握について、協議した。 (地区社協役員、民生委員、ケアネットチーム員等)

4. 地域ボランティア活動の支援

市社協内でチームを作り、それぞれ担当地域へ入り込み、地域住民と共に生活コースや地域状況の把握とともに、地区社協や小地域で行われるボランティア活動などの地域福祉活動が活発化するよう、支援を行った。

(1) 職員の延地域訪問回数

エリア名	延訪問回数		主な訪問内容
	令和3年度	令和4年度	
氷見エリア	85	174	総会、研修、安心生活創造事業、サポ研等
南條エリア	206	181	総会、研修、安心生活創造事業、サポ研等
上庄谷エリア	213	145	総会、研修、安心生活創造事業、サポ研等
灘浦エリア	95	148	総会、研修、安心生活創造事業、サポ研等
合 計	599	648	
前年度比		108%	

5. 生活支援サービス車両提供事業（買い物支援サービス）

買い物支援や移動支援を実施する地区社協へ車両の貸し出しとともに、老人休養ホーム寿養荘の利用者、特に送迎利用者も同様の支援が必要と考えられることから、寿養荘利用者を対象としたショッピングセンター等への送迎を行った。

車両提供分	区 分	令和3年度	令和4年度	前年度比
	回数	31	41	132%
	利用者数	229	358	156%
	サポーター数	42	40	95%
寿養荘買い物支援分	区 分	令和3年度	令和4年度	前年度比
	回数	181	205	113%
	利用者数	942	1,032	110%
	平均人数	5.2	5.0	96%

6. 安心生活創造事業・セーフティネット強化事業

(1) 要支援者の早期発見・把握機能の強化

地区社協単位で、災害時(避難活動時)に何らかのサポートを必要とする人の把握と支援体制整備を、「いのちのバトン設置普及活動」及び「福祉・防災マップ」の作成を通して進めた。

①いのちのバトン設置状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実施地区数	21	21	—
設置人数	4,366	4,333	99%
一斉更新地区数	6	6	—
随時更新地区数	13	11	

②福祉・防災マップ等作成状況

	UPZ圏内	UPZ圏外
マップ・リスト実施地区	11地区(73集落) 稲積(4)、上庄(7)、明和(4) 速川(9)、久目(11)、余川(7) 碓石(6)、八代(6)、藪田(3) 宇波(7)、女良(9)	3地区(27集落) 十二町(10) 神代(6) 仏生寺(11)
マップ・リストの作成・更新作業状況	11地区(73集落) 稲積(4)、上庄(7)、明和(4) 速川(9)、久目(11)、余川(7) 碓石(6)、八代(6)、藪田(3) 宇波(7)、女良(9)	2地区(21集落) 十二町(10) 仏生寺(11)

(2) 対象を限定しない生活支援サービスや居場所(拠点)づくり

住民のニーズに対応するため、地区社協等における生活支援サービス(買い物や移動等)の検討と実施、対象を限定しない居場所(拠点)づくりに関わる取り組みの支援を行った。

①令和4年度新たに実施された取り組み状況

地区名	実施内容
布勢	対象を限定しない居場所づくりとして、旧布勢保育園体育館を活用し「きづなサロン」を開設。
速川	地域住民が気軽に集える場づくりを目指し、速川公民館(旧速川小学校)内で「ちょこっとカフェ(仮称)」を実験実施した。

②継続し実施している取り組み状況

実施内容	実施地区
対象を限定しない居場所づくり	朝日丘、東、稲積、宮田、布勢、十二町、上庄、明和、速川、久目、宇波、女良
生活支援サービス 外出・移動の支援	朝日丘、仏生寺、宇波
学習支援の場	久目
多様な住民が参画できる地域福祉活動の実施	稲積、女良

(3) 地域における相談機能の充実を目指した取り組み

地域住民の相談や困りごと、情報提供などを受け止める「地域なんでも相談」の設置と、地域の支援や専門職等につなぐ仕組みづくりの支援を行った。

「地域なんでも相談」実施状況

実施内容	地区
【常設型】 拠点・開催日を定め実施	継続実施: 4地区 朝日丘、東、稲積、久目
【行事併設型】 地域住民集う機会を活用し実施	新規地区: 1地区 布勢 継続実施: 12地区 加納、窪、宮田、十二町、神代、明和、余川、碓石、八代、宇波、女良

(4) 地域福祉活動サポーターの育成

地域なんでも相談や地域福祉活動に関わりながら、地域住民からの相談対応に応じる人材として、地域福祉活動サポーターの育成を行った。

①新規育成研修の実施

研修内容	実施状況
第1回：講義「域福祉活動サポーターに期待される役割」 実践報告 窪校区社協サポーター：常木 峰子 氏	第1クール(全4回) ・7月6日、8日、15日、19日 ・受講者：12名 ・委嘱者12名
第2回：講義「コミュニケーション・傾聴講座①」 講師 富山国際大学 教授 村上 満 氏	
第3回：演習「コミュニケーション・傾聴講座②」 講師 富山国際大学 教授 村上 満 氏	第2クール(全4回) ・3月6日、10日、13日、22日 ・受講者：20名 ・委嘱者15名
第4回：講義「地域福祉活動に関わる福祉制度について」	

②新規育成研修の実施（地区単位開催分）

上記①と同等の内容の研修を、希望地区社協単位で実施した。

地区社協	開催時期	受講(参加)者数	委嘱者数
上庄地区社協	8月6日 ~ 9月3日	7	6
余川地区社協	8月20日 ~ 9月10日	13	6
稲積地区社協	9月26日 ~ 12月16日	(延べ) 52	2

7. 参加支援事

参加支援コーディネーターを配置し、重層的支援会議で支援決定した要支援者に対し、必要な参加支援の場を提供できるよう、関係者とのネットワークの構築、新たな資源や支援の仕組みづくりを進めた。

相談実績	対象者実人数	4人
	プラン作成数	—

8. 生活支援コーディネーター設置事業

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行うことを目的に、生活支援コーディネーターを1名設置した。社会資源調査やその可視化、新たな生活支援サービスの検討、多世代交流のためのeスポーツ普及、だれでも参加できる新たな集いの場の開発を行った。

《生活支援コーディネーター活動状況》

(単位：回)

活動内容	令和3年度	令和4年度	前年度比
①地域のニーズと資源の状況の見える化と問題提起に関する業務	22	77	350%
②地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけに関する業務	211	46	22%
③関係者のネットワーク化に関する業務	17	125	735%
④目指す地域の姿・方針の共有、意識統一に関する業務	26	194	746%
⑤生活支援の担い手の養成やサービスの開発に関する業務	27	55	204%
⑥その他関連する業務及び個別ケースの同行訪問等	164	107	65%

《社会資源紹介シート》

市内の社会資源の紹介シートを作成。
氷見エリア：5か所 南条エリア：4か所
上庄谷エリア：5か所 灘浦エリア：4か所

《eスポーツ体験（県事業の活用・市社協職員の支援）》

県事業：5回(3か所) 市事業：11回(10か所) 機材のみ貸出し：4回(3か所)

《新たな集いの場「ひみのわ」の開催》

10月13日(木)10:00-14:00市内商業施設にて、地域を問わず誰でも気軽に参加できる「ひみのわ」を開催。きときと100歳体操・eスポーツ体験、集いの場作品展示を行った。

《ボランティア・市民活動分野》

9. 氷見市ボランティア総合センター事業

(1) ボランティアコーディネーター事業

ボランティアの連絡調整・相談により、ボランティア活動への参加を促進し活動の振興を図った。

〈職員配置〉 ボランティアコーディネーター4人(所長含む)
〈開設状況〉 開館日: 年末年始(12月29日～1月3日)を除く毎日 開館時間 午前8時30分～午後10時
〈運営委員会〉 年2回開催 委員数11名

年度		令和3年度	令和4年度	前年度比
相談状況	ケース数 合計	202	202	100%
	希望	48	58	121%
	依頼	66	82	124%
	相談	88	62	70%

※日常対応は含まない

(2) ボランティアネットワーク事業

ボランティア活動者に限らず、ボランティアを推進(受け入れ側)している機関の登録を行い、情報を共有し、連携し合うことで、氷見市のボランティア活動の普及・充実を図った。

〈新規登録数〉		〈登録者総数〉		〈支援機関・支援施設登録数〉	
個人	1人	個人	316人	支援機関	14機関
団体	3団体(延19人)	団体	186団体(延7,579人)	支援施設	20施設

(3) ボランティア保険普及事業

ボランティア活動者が安心して活動できるための保険の加入受付事務を行った。

項目	令和3年度	令和4年度	前年度比
ボランティア活動保険加入者数	1,744	1,253	72%
ボランティア行幸用保険加入件数	24	31	129%
ふれあいサロンの保険加入者数	5,914	8,265	140%
ボランティア活動保険適用件数	2	1	50%

保険の加入者は横ばいで、保険加入が必要な一定の活動者には周知が出来てきていると考えられる。今後も事故防止と事故時の保険適用についての周知を行う。

(4) ボランティア情報発信事業

広報紙や各種メディアなどを通して氷見市民及びボランティア登録者へ情報を発信した。

・広報紙「ひみのふくし」への情報掲載
・登録者への郵送・メールによる情報提供
・行政チャンネル「ボランティアだより」を制作・放送
・新聞各社へのボランティア情報の提供
・SNSを活用した情報提供方法として①LINE、②Facebook、③Instagramの公式アカウントで情報発信

(5) 研修会への参加

職員の資質向上を目的に各種研修会に参加した。

- ・都城市社会福祉協議会 合同事例検討会(リモート)
- ・日本福祉教育ボランティア学習学会第28回こうべ大会

(6) 福祉教育推進事業

幼時からお年寄りまで、地域の中で共に生きる力を育成するために様々なプログラムを実施した。

事業名(テーマ)	開催日時	参加者数	内容(テーマ)
ボランティアチャレンジプログラム(V・C・P)	新型コロナウイルスのため中止		
出張ボランティアセンター	6月23日(木) 9:45~10:35	40	氷見市の福祉・ボランティアについて 対象: 氷見高等学校生活福祉科1年生 会場: 氷見高等学校
	7月14日(木) 9:45~10:35	26	探求テーマ決め、フィールドワーク先選定 対象: 氷見高等学校生活福祉科1年生福祉班 会場: 氷見高等学校
	10月31日(月) 13:10~14:40	16	氷見市における地域福祉・福祉教育実践紹介、 福祉教育プログラム作成オリエンテーション 対象: 富山国際大学子ども育成学部2年生 会場: 富山国際大学呉羽キャンパス
	2月20日(月) 9:00~11:00	7	氷見市熊無地区の伝統工芸品「藤箕」製作体験 地域の継承者との交流、地域理解 対象: 朝日丘小学校特別支援級児童 会場: 朝日丘小学校

(7) 各種ボランティア講座・研修開催事業

ボランティア個人・団体等のニーズに合わせた各種講座・研修を開催した。

事業名	開催日時	参加者数(内訳)	内容
テーマ型ボランティア育成講座	①9月17日(土) ②10月1日(土) ③10月15日(土) ④1月12日(土) ⑤2月18日(土) 全て10:00-12:00	受講者11名(男1、女10)	コロナ禍でも人と人をつなぐことのできる活動の一つとして、福祉施設やひとり暮らしの高齢者などに絵手紙を描くボランティアの育成を行った。 ①オリエンテーション絵手紙の基本 ②③実技 ④ボランティアについて ⑤施設の利用者と交流 講師: ①~③日本絵手紙協会公認講師 池田 治美氏
出張ボランティアセンター(ボランティアイベント)	①8月27日(土) ②1月28日(土) 10:00~15:30 ハッピータウン氷見ショッピングセンター1階催事場	①来場者約68名 職員のみ ②来場者約43名 高校生ボランティア5名 一般ボランティア1名 ボランティア団体2団体	ボランティアのすそ野拡大のため、ボランティア活動・団体に関する情報やボランティア体験の提供、気軽に取り組める活動の紹介を行った。また、活動者や団体が交流する場や日頃の活動成果を披露する場を設けることで、活動に対する意欲を高め、今後の市内ボランティアの活性化を図ることを目的に実施した。 ・①②ボランティア相談 ・②ポッチャ体験・②ハンドマッサージ体験 ・①②収集物・保存食受付等 ・①②ボランティア団体PR動画上映 ・①②制作・折り紙 ・②赤い羽根共同募金の紹介等 ・①キッチンカー

(8) 遊休品バンク「Eくすちやー・Eかすちやー」の実施

市民や団体等からの生活物品の寄付を受付、生活困窮者や災害被災者等の緊急的に支援が必要な対象者に必要な物資を提供した。

寄付(Eくすちやー)		
項目	令和3年度	令和4年度
受付物品等合計	384	563
受付物品	180	338
食品	204	225
受付不可物品等	4	4

受付物品の内訳

冷蔵庫、洗濯機、下着、布団、タオル、暖房器具、米、レトルト食品、缶詰等

提供(Eかすちやー)		
項目	令和3年度	令和4年度
提供物品等合計	166	570
物品(貸し出し含む)	49	347
食品	117	223
提供不可(延)	0	0

提供物品の内訳

洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、暖房機器、タオル、布団、下着、乾麺、アルファ米、レトルト食品等

(9) その他の関連事業

センターとしてその他継続事業を実施した。

事業名	開催日時	参加者数等
施設ボランティア担当者連絡会	9月12日(月)	アンケート回答率:32/71施設(45%)
災害救援ボランティア整備事業	①4月1日～3月31日	①災害救援ボランティアセンターの設置に備えた関係機関との情報共有、センター備品の整備
	②8月20日(土) 9:30～11:30 9月4日(日) 8:30～12:00	②氷見市災害ボランティア・生活園センター・運営訓練の開催。センターの設置・運営、既存のマニュアル点検や関係機関との連携方法の確認を行った。
ボランティア寄付金の受付	通年	4件

10. 新型コロナウイルス感染症自宅療養者等支援事業

新型コロナウイルス感染症による自宅療養者等に対して買い物代行や薬の受取代行を行った。

	令和4年度
希望者数	20
支援回数	24
買物代行回数	18
薬受取代行回数	6

Ⅲ こども支援課

1. ファミリー・サポート・センター

(1) 会員の状況

① 依頼会員数

	令和3年度	令和4年度	前年比
依頼会員数	879人	857人	98%

② 協力会員数

	令和3年度	令和4年度	前年比
協力会員数	15人	15人	100%

③ 地区別

エリア	協力会員数	依頼会員数
氷見	9	280
南條	3	357
上庄谷	3	90
灘浦	0	60
市外在住登録者	0	70
合計	15	857

(2) 利用状況

① 場所別

利用場所	令和3年度	令和4年度	前年比
こども館 きらら	202	210	103%
ヘルパー宅	0	0	0%
利用者宅	0	0	0%
その他	7	16	229%
合計(件)	209	226	108%

② 理由別

利用理由	きらら	ヘルパー宅	利用者宅	その他	合計
・保育施設の保育開始前の預かり					0
・保育施設の保育終了後の預かり					0
・保育施設までの送迎	30				30
・放課後児童クラブ終了後の預かり					0
・学校の放課後の預かり					0
・冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の預かり	11				11
・買い物等外出の際の預かり	88			3	91
・兄弟姉妹の病気時の預かり					0
・兄弟姉妹の習い事時の預かり					0
・保護者の短時間・臨時的就労時の預かり	73			13	86
・保護者の求職活動中の預かり	2				2
・産前産後の安静時の預かり					0
・保護者の体調不良時の預かり	6				6
延べ利用者数	210	0	16	16	242

前記預かり状況内の病児・緊急対応強化事業による預かり	きらら	ヘルパー宅	利用者宅	その他	合計
* 回復期にある子どもの預かり					0
* 早朝(8:00以前)、夜間(18:00以降)の緊急預かり					0

(3) 情報提供

広報紙「氷見の福祉」への情報掲載、各保育園・病院・市役所・各行政機関等へのチラシの掲示、配布を行った。

2. 事業所内保育所事業

事業所の従業者の仕事と子育ての両立を支援するために乳幼児の保育を行った。様々な状況に合わせた保育の場を確保するため、地域の保育を必要とする乳幼児の保育を行った。

(1) 事業の概要

施設の種類	事業所内保育所
施設の名称	こども館きらら
施設の所在地	氷見市鞍川975番地
対象児童	児童福祉法及び子ども・子育て支援法の定めるところにより、保育を必要とする概ね0歳～2歳の児童
利用定員	満2歳の児童 3人(うち地域枠2人)
	満1歳の児童 3人(うち地域枠2人)
	乳児 6人(うち地域枠4人)
開所日・時間	月曜日から土曜日まで(日曜、祝日は休所)7時30分～18時30分

(2) 利用状況(月初め入所児童数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	2	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3
1歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2歳児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	3	2	2	2	2	2	3	3	4	4	4	4

3. 氷見市児童館

(1) 氷見市児童館事業

様々な遊びや体験活動を提供することで、子どもたちの健やかな成長を支援した。定例行事の他、子どもたちと地域が結びつくことのできる行事を多く取り入れるなど、異世代交流にも力を入れた。

事業名	活動内容	協力者	開催回数	延参加者数
書き方教室	硬筆書写の上達を目的に実施した。	硬筆講師	10	107
将棋教室	将棋の基本を学んだ。	将棋講師	10	33
創作教室	竹や紙を素材とした工作活動を実施した。	氷見市児童クラブ連盟	10	56
お茶教室	日本古来の伝統文化に触れ、基本的な作法を習得した。	茶道講師	10	17

①年間行事

事業名	活動内容/実施日	協力者	開催回数	延参加者数
地域ボランティア推進事業	サバイバル体験教室/10月30日(日)	児童支援ボランティア	1	10
	地域体験活動(釣り体験)/7月24日(日)31日(日)、9月25日(日)	児童支援ボランティア	3	28

②地域子育て活動支援

事業名	活動内容	協力者	開催回数
出張児童館	地域の拠点において、様々な遊びのプログラムを提供	登録ボランティア	8回
こどもホームデリ	新型コロナウイルス感染症の影響で、経済的に困窮している家庭への食材支援。	児童支援ボランティア	5回 個別対応：10回
こども食堂支援	ひみキトキトこども食堂ネットワーク事務局、こども食堂の周知、活動支援	各こども食堂スタッフ等	12回

③児童館利用状況 (人)

	令和3年度	令和4年度	前年度比
幼児	527	430	82%
児童	7,605	5,942	78%
生徒	48	21	44%
大人	793	560	71%
合計	8,973	6,951	77%
開設日数	359日	359日	

(2) 放課後児童対策事業

昼間保護者のいない家庭の児童を対象に、児童の保護や健全育成の向上を図るため、氷見市児童館の1室を利用して、保護者が帰宅するまでの間、指導員により、学習指導や遊び等を通して健全育成活動を行った。

対象児童	日中家に保護者のいない東地区の1年生～3年生(定員45名)、4年生～6年生(定員25名) ※H27年度より、2つの学童保育を実施・・・1～3年生(ファン)、4～6年生(ジャンプ)		
開設時間	月曜日から金曜日 午後2時～午後10時	土・日・祝日(長期休暇)	午前8時～午後8時
開設日数	平日 205日	土・日・祝日(長期休暇)	154日

学年別登録者数	ファン				ジャンプ			
	1年生	2年生	3年生	合計	4年生	5年生	6年生	合計
	8	10	17	35	9	4	1	14

延利用者数	令和3年度	令和4年度	前年度比
	7,054	5,608	80%

活動内容	自主性・社会性・創造性の向上を図るため、遊びを中心とする活動の支援 ・読書 ・遊具を使った遊び ・軽運動 ・工作 ・異年齢交流活動(囲碁・将棋)等 ①遊びを通しての生活指導、健康管理と安全確保、小学校との情報交換会の実施 ②児童の活動状況の把握と家庭への連絡、親子活動の実施等 * 活動場所・・・児童館(ITワールド、こどもの城、工作室)・いきいきサロン、アリーナネット遊具、屋外運動広場
------	--

(3) 子育て支援スタッフ育成・発掘事業

地域ぐるみで子育てしやすい環境を作るため、子育て支援現任者や、子育てに関心のある者を対象とした研修を実施することとで、地域における多様な子育て支援の充実を図った。
(子育て家族応援講座:7講座延べ183人参加)

(4) 学習・生活支援事業

貧困の連鎖を防止するため、ひとり親世帯、生活困窮世帯、生活保護受給世帯、就学援助受給世帯等の子どもに対し、学習・生活援助を推進することを目的とし、該当世帯の子どもに対する学習・生活支援を行った。また、支援が必要な子どもや家庭に適切な支援が届くよう、関係機関とのネットワーク構築を図った。

事業名	活動内容	参加者数
D.Dスマイル塾	学習・生活支援の場を設け、週3回実施した。その際、「学習支援員」と生活支援を含めた学習のサポートをする「サポーター」を配置した。	26人(延728人)
お楽しみ交流会	調理体験、シルクスクリーン体験、海釣り体験等	99人

IV 高齢者支援課

1. 居宅介護支援事業

介護認定を受けられた方が、安心して自宅で生活できるよう、介護支援専門員が介護サービスの調整や相談に対応した。(介護支援専門員 5人)

(1) ケアマネジメント延件数

	令和3年度	令和4年度	前年度比
延利用件数	1,645	1,530	93%
実人数	208	203	98%
新規件数	43	36	84%
中止件数	37	42	114%

(2) 要介護度別延べ利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
延べ人数	5	31	561	341	259	215	118	1,530
構成比(%)	0.3%	2.0%	36.7%	22.3%	16.9%	14.1%	7.7%	100%

2. 訪問介護事業

ヘルパーが訪問し、身体介護や生活援助など、本人の意欲や能力を引き出しながら日常生活を支援した。(提供責任者 4人 登録ヘルパー14人)

(1) 要介護度別利用者数

要介護度	実利用者数(人)		令和4年度 構成比	前年度比
	令和3年度	令和4年度		
要支援1	21	20	9%	95%
要支援2	32	32	15%	100%
要介護1	44	44	20%	100%
要介護2	38	38	17%	100%
要介護3	46	32	15%	69%
要介護4	43	27	12%	62%
要介護5	26	26	12%	100%
合計	250	219	100%	88%

(2) 業務内容別集計

	利用回数		前年度比
	令和3年度	令和4年度	
身体介護中心	4,970	4,056	82%
生活援助中心	3,133	3,237	103%
身体生活	1,152	1,127	98%
通院等乗降介助	850	631	74%
合計	10,105	9,051	90%

3. 訪問入浴介護サービス

特殊浴槽車が自宅に赴き、自宅での入浴機会を提供した。(看護師2人、介護員5人、運転手3人)

(1) 要介護度別利用者数

	令和3年度	令和4年度
区分	実利用人数	実利用人数
要支援2	0	0
要介護1	1	0
要介護2	2	2
要介護3	6	0
要介護4	8	3
要介護5	9	9
合計	26	14

(2) 述べ利用実績

令和3年度	520回
令和4年度	368回
前年度比	71%

4. 地域密着型通所介護事業（老人福祉センター）

軽度者を対象とした寿養荘内のデイサービスで、介護予防、自立支援などの目的を持ってサービスを行った。(事業管理者1人、看護師2人、生活指導員2人、介護員2人)

(1) 実利用者数・延利用者数

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実利用者数	46人	36人	78%
延利用者数	2547人	2306人	90%

(2) 要介護度別利用者数

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	0	0	1	1	0	0	0	2
女性	8	5	11	10	0	0	0	34
合計	8	5	12	11	0	0	0	36
構成比	22%	14%	33%	31%	0%	0%	0%	100%

5. 福祉用具貸与事業

特殊寝台や床ずれ予防マットなど12種類の福祉用具を貸与した。(福祉用具専門相談員 2人)
利用状況

サービス種別	延べ利用者数		前年度比
	令和3年度	令和4年度	
介護保険対象者	733 人	604 人	83%
介護予防対象者	55 人	47 人	85%
社協福祉サービス	644 人	554 人	86%
合計	1432 人	1205 人	84%

6. 日常生活金銭管理サービス

ヘルパーを利用している方の買い物代金の預かりなど、日常生活に必要な金銭管理を行った。(社協独自サービス)

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実利用者数	15人	19人	126%

7. ひみサンテ（グループリビング）

寿養荘2階で自宅で生活できない低所得の一人暮らしや高齢者世帯の方の共同生活をスタッフの見守りのもと行った。

利用状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実利用者数	8人	4人	50%

8. ほっとヘルプサービス事業

介護保険の訪問介護サービスを適用できない方が対象。コロナ禍の中、入院中の援助の依頼が無くなり利用が無かった。

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実利用者数	0人	0人	0%

9. 障害者ホームヘルプサービス

在宅の障害者宅にヘルパーが訪問し、日常生活を支援した。

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実利用者数	14人	12人	85%
利用日数	951日	762日	80%
延利用回数	901回	762回	84%

10. 障害者訪問入浴サービス

在宅の障害者宅に特殊浴槽を持ち込み自宅での入浴の機会を提供した。

	令和3年度	令和4年度	前年度比
実利用者数	2人	1人	50%
利用日数	21回	55回	262%

V 障害者支援課

1. 障害者福祉センター

(1) 障害者総合相談

① 年度別相談件数

	令和3年度	令和4年度	前年度比
身体障害者	72	96	133%
知的障害者	94	72	77%
精神障害者	507	823	162%
その他	20	17	85%
年度合計	693	1,008	145%

② 内容別相談内訳

内容	令和3年度	令和4年度	前年度比
福祉サービス利用に関すること	12	17	142%
障害や病状の理解に関すること	43	67	156%
健康・医療に関すること	12	135	1125%
不安の解消・情緒安定に関すること	315	506	161%
保育・教育に関すること	1	4	400%
家族関係・人間関係に関すること	248	218	88%
家計・経済に関すること	14	26	186%
生活技術に関すること	12	22	183%
就労に関すること	2	2	100%
社会参加・余暇活動	22	22	100%
権利擁護	12	1	8%
その他	0	0	
合計	693	1,020	147%

③ 計画相談支援

	令和3年度	令和4年度	前年度比
サービス利用・継続支援 (初めてサービスを利用する方の計画相談)	9	4	44%
サービス継続支援 (サービス利用のモニタリング)	28	14	50%
サービス利用支援 (サービスを変更したい方のための計画相談)	3	5	167%
合計	40	23	58%

(2) 障害区分認定調査

障害区分認定調査実人数

	令和3年度	令和4年度	前年度比
施設入所者	7	0	0%
在宅者	6	19	317%
合計	13	19	146%

(3) デイサービス

サービス別利用内訳

サービス	実利用人数			延利用回数		
	令和3年度	令和4年度	前年度比	令和3年度	令和4年度	前年度比
通所介護	18	16	88%	1,214	984	81%
障害者デイ	12	12	100%	1,004	1,112	110%
障害児デイ	7	5	71%	590	411	69%
通所入浴	0	0	0%	0	0	0%
障害児通所入浴	3	3	100%	164	200	121%
合計	40	36	80%	2,972	2,707	91%

(4) 介護度、障害区分別利用内訳

区分	実利用人数			延利用回数		
	令和3年度	令和4年度	前年度比	令和3年度	令和4年度	前年度比
要支援1	1	1	100%	41	9	21%
要支援2	2	0		22	0	
要介護1	3	3	100%	294	219	74%
要介護2	4	3	75%	275	184	66%
要介護3	4	5	125%	460	414	90%
要介護4	2	2	100%	24	69	287%
要介護5	2	2	100%	98	89	90%
介護合計	18	16	88%	1,214	984	81%
障害区分1	0	0		0	0	
障害区分2	2	2	100%	181	107	59%
障害区分3	2	2	100%	129	147	113%
障害区分4	2	1	50%	43	29	67%
障害区分5	2	3	150%	172	229	133%
障害区分6	4	4	100%	479	600	125%
障害合計	12	12	100%	1,004	1,112	110%
総合計	30	28	93%	2,218	2,096	94%

VI. ふくし相談サポートセンター

1. ふくし相談サポートセンターの運営

市庁舎内において、福祉介護課・子育て支援課・市社協が官民協働で行う福祉の総合相談支援窓口として、各課の申請や相談窓口で対応しつつ、「どこに相談すればよいかわからない」「制度を活用できない」、「重複する生活課題を抱えている」などの相談を市社協が対応した。

(1) 相談件数実績

		令和3年度	令和4年度	前年度比
新規相談件数		202	151	75%
相談経路	当事者	76	56	37%*
	家族	25	25	17%*
	知人	5	1	1%*
	地域	13	18	12%*
	専門機関	44	31	20%*
	行政	39	20	13%*
相談実件数		818	902	110%
支援内訳	電話	1,908	1,838	96%
	訪問	1,020	985	97%
	来館	798	655	82%
	その他	3,184	2,888	91%
延支援回数		6,910	6,366	92%
主訴終結ケース		70	64	91%
主訴終結割合		9%	7%	78%

* 相談経路のみ、相談件数に占める割合

(2) 相談内容内訳

主な相談内容(重複有)	令和4年度	令和3年度
病気や健康	30	病気や健康、障害のこと…69
障害	25	前年度比 : 80%
介護	12	子育て、介護のこと…17
子育て	3	前年度比 : 88%
食べるものがない	4	3 前年度比 : 133%
家族関係	27	家族関係・人間関係…21
人間関係	6	前年度比 : 157%
地域との関係	15	12 前年度比 : 125%
収入・生活費	40	49 前年度比 : 82%
住まい・家賃	17	住まいについて…19、債務について…2
ローン・債務の支払い	7	家賃やローンの支払いのこと…6
税金や公共料金等の支払い	6	10 前年度比 : 60%
貸付に関すること	33	
保証人に関すること	1	
仕事探し、就職	15	12 前年度比 : 125%
仕事上の不安やトラブル	2	2 前年度比 : 100%
ひきこもり	17	ひきこもり・不登校…19
不登校	4	前年度比 : 90%
DV・虐待	4	5 前年度比 : 80%
その他	30	101 前年度比 : 30%

* 相談内容の見直しをしたため前年度との比較ができない項目あり

2. 基幹相談支援事業

障害分野における相談支援事業所の個別支援計画作成支援や困難ケースへのアドバイス及び介入をはじめ、人材育成・各機関とのネットワークづくり等市内の障害に関する環境整備を行った。

(1) 相談件数及び支援時間実績

	令和3年度	令和4年度
新規相談件数	53	51
実件数	321	337
延支援回数	3,487	3,430
延支援時間	1,724	1,680

(2) 障害種別による相談件数

() 内数字は、前年度件数

	精神	知的	身体	重複	難病	児童	不明
実人数	24(22)	7(10)	4(4)	1(1)	0(1)	2(5)	5(10)
構成比	56.0%	16.0%	9.0%	1.0%	0.0%	5.0%	12.0%

(3) 各種会議（部会）の運営

関係機関との情報共有を行い、氷見市における障害者支援のネットワークづくり、サービスの開発・強化について会議を行った。

会議・部会名	主な内容
氷見市相談支援事業所連絡会 (全12回)	日頃の相談業務で困難な事例についてアイデアを出し合い、氷見市に足りない支援について検討する。事例検討8回、研修会の情報提供などを行った。
就労支援連絡会 (全5回)	事例検討や虐待防止研修会を通して、資質向上、情報共有を図った。また、障害者を雇用している企業見学とそこで働く障害者にインタビューをすることで、各事業所の利用者の就労意欲を高めることができた。
氷見市障害者サービス調整会議 (全3回)	地域生活支援拠点に関するアンケート調査について検討し、福祉サービスを利用していない障害者の方に向け、緊急時の相談に関するアンケートを実施した。また、避難行動要支援者避難誘導訓練(窪地区)について報告し、関係機関の現状や課題を協議した。

(4) 居場所づくり

事業名	主な内容
リカバリーカフェ	ピア・フレンズ(精神疾患を持ちながら地域の仲間を支える)が主体的に場を運営し、相談にのったり、テーマに沿った研修を企画した。年6回 毎回約20人参加。
レターカフェ	新型コロナウイルスの影響により、リカバリーカフェの中止。「コロナ禍でもつながり続けられないか」と模索し、ピアフレンズのアイデアから「Letter Caf��」発刊。年6回、456部発行。

(5) 各種研修会など

事業名	実施日	講師・シンポジスト	主な内容
発達障害を理解する 7days	基礎編 8/1～22(3日間)	山口 久美 氏 有)SNOW DREAM 代表 NPO法人ふわり等 スーパーバイザー	基礎編(23名)、親向け(22名)、リカレント編(21名)が参加。保健、医療、福祉(障害・保育)関係者、地域住民が参加し、発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方の理解を深める目的で研修を行った。
	親向け 9月11日		
	リカレント 2/13～27(4日間)		
障害のある人もない人も共に生きるまちづくりフォーラム	新型コロナウイルスの影響により開催せず。		

3. 生活困窮者自立相談支援事業

平成27年4月から施行された「生活困窮者自立支援制度」に基づき、経済的困窮者や複合的な課題を持つ世帯を対象に、相談支援業務を担当し、従来の福祉分野を越えた多職種で支援するためのマネジメント及び就労に向けた環境整備等を行った。

相談件数等実績

		令和3年度	令和4年度	前年度比
相談件数総数		777	858	110%
継続件数		609	740	122%
新規件数		168	118	70%
延支援回数		5,321	5,016	94%
主訴終結件数		37	32	86%
内訳 (重複あり)	ケアプラン作成件数	15	10	67%
	支援調整会議の開催回数	4	4	100%
	就労支援件数	29	29	100%
	緊急食糧支援食品提供個数	57	166	291%
	住居確保給付金相談件数	6	3	50%
	生活福祉資金貸付相談件数	101	47	47%
	生活保護相談連携件数	17	5	29%

4. 家計改善支援事業

収入(賃金や公的年金等)と支出のバランスが崩れることによって、様々な生活課題を抱えている生活困窮世帯等を対象に、家計状況を整理するなど、収入と支出のバランスが保たれるよう支援を行い、関係する生活課題の解決を図った。

(主な取り組み)

主な内容及び成果	令和3年度	令和4年度	前年度比
生活困窮者家計相談者数	100	42	42%
同家計支援者数	5	4	80%
延支援回数	274	239	87%
生活福祉資金貸付相談者数	101	47	47%
同貸付支援者数	62	14	23%

5. 生活困窮者等緊急生活支援事業

生活困窮者や緊急的な支援が必要な世帯を対象とし、必要最小限の食料品や衣類等生活用品の提供、住まいの応急的な補修・環境整備に要する資材の提供等、衣食住に対する支援に備えた。

	令和3年度	令和4年度
支援者数	0	0

6 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

多機関協働マネージャーを配置し、対象を限定せずすべての市民の福祉に関わる相談に対応すると共に、地域や包括的相談事業（地域包括支援センター、困窮、基幹、子育て世代包括支援センター等）が把握した「社会的孤立者」等の支援について、地域、専門職、行政が円滑に連携し支援できるようコーディネートを行った。また、重層的支援会議等、各種会議を通して支援体制の強化に関する取り組みを行った。

（１）相談件数実績

		令和3年度	令和4年度	前年度比
新規相談件数		23	18	78%
相談経路	当事者	1	1	100%
	家族	2	1	50%
	知人	0	0	
	地域	3	5	167%
	専門機関	12	5	42%
	行政	4	5	125%
	医療機関	1	1	100%
支援内訳	電話	109	181	166%
	訪問	59	34	58%
	来館	65	24	37%
	その他	38	95	250%
述べ支援回数		271	332	123%
継続相談件数			23	
支援内訳	電話		138	
	訪問		31	
	来館		45	
	その他		270	
述べ支援回数			484	

（２）セーフティネット関係会議への参画、研修参加

会議名	開催回数		内容
	令和3年度	令和4年度	
地域セーフティネット定例会議	12回	11回	市関係課職員及び市社協職員で構成し、庁内連携をスムーズに行うための情報共有や相談支援事例をとおして連携体制のルールやセーフティネット構想の実現に向け協議・検討した。
重層的支援会議 (本人同意あり)	12回 (3人)	15回 (5人)	複雑化・複合化した支援ニーズを有する者やその世帯に対して、関係者を召集、情報共有をした上で、対応策の検討及び役割分担を行い、支援の方向性にかかる合意形成と、支援に向けた円滑なネットワーク形成を図った。
個別支援会議 (本人同意なし)	29回 (19人)	28回 (36人)	
地域セーフティネット分科会	5回	9回	第4次氷見市地域福祉計画策定にあたり、既存の各種制度や取り組みの見直し等を行い、今後5年間の方向性、新たなサービスや取り組みなどの社会資源の開発について協議、検討した。 ①ひきこもりの住民への支援体制の構築 2回 ②権利擁護(死後事務、身元保証人など) 2回 ③居住・居場所作り 1回 ④災害時の福祉環境の整備 1回 ⑤地域組織の維持 3回
地域セーフティネット構築会議	1回	2回	地域、専門機関、ボランティア団体等で構成し、氷見市における社会的に陥っている方(陥る可能性のある方)を早期に発見する仕組みなどの実現に向けた取組について検討した。
地域会議	9地区 9回	11地区 11回	地区社協や民生委員児童委員の地区定例会等に訪問し、地区内で挙がっている個別相談事例を共有し、支援方法について検討などを行った。

7. アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化事業、 アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

アウトリーチ支援員を2名配置し、訪問支援機能を高めるとともに、地域や行政・専門機関と連携し、社会的孤立状態に陥っている(陥る可能性のある人を含む)人・世帯への支援を円滑に進めた。

(1) 相談件数実績

		令和3年度	令和4年度	前年度比
新規相談件数		38	50	132%
相談経路	当事者	9	14	156%
	家族	8	9	113%
	地域	4	15	375%
	知人	1	1	100%
	行政	8	2	25%
	包括ブランチ	0	0	
	介護支援専門員	3	2	67%
	医療機関	1	1	100%
	障害関連機関	1	1	100%
	県社協	0	0	
	市社協	1	1	100%
	その他	2	4	200%

(2) 相談内容内訳

主な相談内容(重複有)		令和3年度	令和4年度	前年度比
相談内容総数		85	98	115%
内訳	病気や健康	18	8	100%
	障害		10	
	介護	4	5	175%
	子育て		2	
	食べるものがない	1	0	0%
	家族関係	10	10	110%
	人間関係		1	
	地域との関係のこと	5	12	240%
	収入・生活費	11	16	145%
	住まい・家賃	6	4	67%
	ローン・債務の支払い	3	0	0%
	税金や公共料金等の支払い	2	3	150%
	貸付に関すること		4	
	保証人に関すること		0	
	仕事探し、就職	2	7	350%
	仕事上の不安やトラブル	1	0	0%
	ひきこもり	6	5	100%
	不登校		1	
	DV・虐待	2	1	50%
	その他	14	9	64%

初回相談時の主な相談内容が
 ・1つの相談・・・20件
 ・2つの相談・・・17件
 ・3つの相談・・・9件
 ・4つの相談・・・3件
 ・6つの相談・・・1件
 ※相談者(世帯)の約6割が複合する課題(悩み)を持っている。

(3) 地域福祉活動サポーター活動状況

①地域福祉活動サポーター数	120人			
②相談を受けた実人数	上期	57人	下期	57人
③相談・情報提供の件数	上期	140件	下期	151件

相談内容	件数	割合
高齢者(介護)に関すること	22	7%
高齢者(認知症・生活面)に関すること	138	43%
障害に関すること	10	3%
児童・生徒に関すること	0	0%
家族関係に関すること	14	4%
地域・近隣関係に関すること	38	12%
暮らしに関すること	55	17%
ひきこもりに関すること	1	1%
その他	41	13%

対応内容	件数	割合
話を聞くことで済んだ	167	53%
地区社協で対応した	21	7%
民生委員の協力を得て対応した	62	20%
自治会の協力を得て対応した	52	16%
サポセンへ相談・情報提供した	7	2%
サポセン以外へ相談	6	2%
相談した専門職・機関	市(福祉介護課、市民課、地域包括支援センター)、ケアマネジャー、病院	

④地区社協等における地域福祉活動参加状況

内容	人数	割合
ケアネット活動の協力	147	21%
なんでも相談会の協力	50	7%
ふれあいランチなど高齢者の集いの場の協力	73	11%
配食やいのちのバトンの配布など個別訪問活動の協力	114	16%
きときと100歳体操(地区社協主催)の協力	74	11%
子育てサークルなど、子育て支援	43	6%
住民の集いの場(サロン活動)	63	9%
その他(会合出席、マップ作成等)の活動	129	19%

《福祉サービス利用支援》

8. 日常生活自立支援事業

		令和3年度	令和4年度	前年度比
問合せ件数		6	10	167%
初期相談件数		3	5	167%
相談援助件数		566	436	77%
契約締結件数	前年度末利用者数	14	13	93%
	新規契約者件数	3	0	0%
	契約終了者件数	4	3	75%
	年度末利用者数	13	10	77%
生活支援員	登録者数	7	7	100%
	延活動回数	201	148	74%

9. 生活福祉資金貸付制度

(1) 本則における相談実績

	令和3年度	令和4年度	前年度比
相談実人数	21	39	186%
相談延回数	53	92	174%
貸付申請件数	1	1	100%
貸付決定件数	1	1	100%
貸付不承認件数	0	0	
貸付決定内訳	福祉資金1件 (緊急小口資金)	福祉資金1件 (緊急小口資金)	

(2) 新型コロナウイルス感染症における特例貸付の相談実績

相談実人数	59
相談延回数	149

	申請件数		備考
	令和3年度	令和4年度	
緊急小口資金	31	10	・申請受付は令和4年9月30日で終了
総合支援資金	16	5	・申請受付は令和4年9月30日で終了
総合支援資金【延長】	1	0	・申請受付は令和3年6月23日で終了
総合支援資金【再貸付】	15	0	・申請受付は令和3年12月末日で終了
合計	183	15	

	決定金額(単位:万円)		備考
	令和3年度	令和4年度	
緊急小口資金	535	200	・申請受付は令和4年9月30日で終了
総合支援資金	805	220	・申請受付は令和4年9月30日で終了
総合支援資金【延長】	45	0	・申請受付は令和3年6月23日で終了
総合支援資金【再貸付】	660	0	・申請受付は令和3年12月末日で終了
合計	2,045	420	

Ⅶ. 施設管理（指定管理者制度）

1. 寿養荘の運営・管理

利用者状況

	令和3年度	令和4年度	前年度比
利用者数	6,162	6,211	101%

2. いきいき元気館の運営・管理

利用者状況

		令和3年度	令和4年度	前年度比
ホール	件数	108	70	65%
	人数	4,233	2,827	67%
大会議室	件数	332	134	40%
	人数	4,360	2,193	50%
小会議室	件数	777	271	35%
	人数	5,890	2,331	40%
トレーニングルーム	人数	0	0	-
来館者数	人数	29,887	19,212	64%

※トレーニングルームは新型コロナワクチン接種会場のため、閉鎖中